

■事故の概況

人と車参照



事故類型：追突

発生日時：土曜日の夜

当事者A：普通乗用車    男性

当事者B：普通乗用車    男性

■ 事故の概要

Aは片側3車線の幹線道路において、小さい子ども2人（10歳・8歳）を乗せて時速70kmで走っていた。子供に飲み物を渡そうとして脇見したことで信号待ちで停止していたB車に気付くのが遅れ急ブレーキを掛けたが間に合わず衝突した。

Bは信号待ちをしていたところにA車の接近に気づく間もなく追突された。

A車の乗員は全員無傷、B車の助手席同乗者は頸椎捻挫の軽傷を負いました。B車両の後部の損壊は大きく、追突された時の衝撃の大きさを感じられます。幸いB車の後席には誰も座っていませんでした。

■ 事故から学ぶ

Aは一般道路を時速70kmの高いスピードで走りながら脇見をしたことで、B車に接近していたことに気づくのが遅れ追突しました。このスピードで5秒間脇見をしたと仮定すると約100m近く進むことになり、この間自動車や歩行者が飛び出したとしても避けることはできません。Aが速度を落として運転に集中していれば衝突は十分防ぐことができた事故と言えます。

“ながら運転”という行為は、飲酒運転、暴走行為、信号無視とは受けるイメージが異なり軽く受け止めがちですが、「カセットテープを取り換える際にわき見運転となり、幼児の列に突っ込む」というニュースもありました。自動車は生活に欠かすことができない便利な乗り物ですが、運転をする人の心がけ次第では恐ろしい凶器にもなることを忘れずに日頃の運転に心がけてください。